

今年も元気! 全国「狸吉」大集合!

18回横浜総会に出席の皆さん(前列左から二人目が世話人・角田氏)⇒2015年9月5日・横浜海洋会館で



日本たぬき学会通信

第39号

日本たぬき学会
会長・大平正道
事務局 〒529-1851
滋賀県甲賀市信楽町
長野 459-2
TEL0748-82-0073
Fax0748-82-0373

狸検定に挑戦 ⑩

動物としてのタヌキ、文化としての狸…「Tanuki」は実に多面的。当学会に棲まうこと十数年の古狸会員でさえ「知っているようで 知らない」不思議な存在「Tanuki」。本紙お楽しみ連載「狸検定に挑戦」その第⑩回。今号では「野生タヌキ」の独自の習性についてクイズ形式で綴ります。

前狸座々長・植田郁氏の労作(草稿)を日本たぬき学会では単行本「狸の不思議-狸検定」として刊行しようとしています。上梓の時には会員諸氏のご笑読を期待しつつ…。

《第21問》なぜ? 「たぬき寝入り」と言うの? その実態は?

- (イ) イビキの様な鳴き声から
- (ロ) 寝てばかりいるから
- (ハ) 大きな音に驚いて、失神状態になるから
- (ニ) 落ち葉などに潜り込んで寝るから

《第22問》交通事故死でタヌキが多い原因は?

- (イ) 行動が鈍いから
- (ロ) 暗くなってから行動するから
- (ハ) エンジンの音に驚いて道路上で失神するから
- (ニ) 車に襲いかかるから

【解説と解答】昔から狸が妖怪動物のように伝えられてきたのは野生狸の生態が他の里山動物にない特異な習性行動にあるようです。習性行動には「狸寝入り」や「死んだふりをする狸死」「たぬきの空寝」「溜め糞」などがあります。

タヌキは大変臆病で、猟師の銃の音や自動車のエンジン音など突然の大きな音に驚くと失神状態になります。それを見て「狸は死んだふりをして人をだます」と狸の妖怪説が囁かれるようになりました。

最近タヌキの交通事故死が増加していますが、道路上で自動車のエンジン音に驚き失神してしまう習性が事故の原因だとすると、車時代の一番の犠牲者と言えます。

解答は《問21》が(ハ)。《問22》も(ハ)。

《第23問》「狸のタメ糞」と言われる習性の実態と理由は?

- (イ) 腹に糞を溜めるから
- (ロ) 共同トイレのように一ヶ所に決めてするから。
- (ハ) 几帳面な性質であるから。
- (ニ) 清潔好きであるから。

【解説と解答】これも他の野生動物にないタヌキの習性です。里山動物の多くは排泄をとどこかまわず行きますが、タヌキは人目を避けた特定の場所を決めて、家族や一族が共同トイレのように一箇所にします。こうした習性が「狸のため糞」と呼ばれます、タヌキに限られた珍しい行動です。溜め糞場は年を重ねることに多くの群れが利用するようになり、1畝四方に広がり高さも30cm以上にも積み上げられます。

《第24問》「溜め糞場」はどんな役割を果たしていますか?

- (イ) 安全と安心の場所
- (ロ) 他の動物と区別するプライド
- (ハ) 餌の在りかなど、情報交換をする場
- (ニ) 群集で行動するため

【解説と解答】タヌキにとって、この共同トイレは排泄された糞の状態や木の葉の種などから餌の時期や、在りかを知る…つまり狸同士の情報交換の場であり、一族の群れに重要な情報交換の場になっています。

人間にとっては、ペットの糞公害が問題になっていますがタヌキは汚物を撒き散らさない環境思いの動物と言えますのでね。解答は《23問》が(ロ)。《24問》が(ハ)。

家政は「二代目」か

「出藍」か



本格歴史作家・箕輪諒デビュー2作目

○…氏名の多くは地名に由来する。阿波(徳島・次回大会予定)の殿様「蜂須賀」家の由緒の地は「八州ヶ」(はちすか)なのだろうと推測している。

○…徳島の初代藩主・蜂須賀家政の父は「小六」と言った。少年の頃、耽読したカバヤ文庫に登場する小六は、満面、黒髭に覆われた野盗の大親分。真っ暗闇の夜更けの矢作川橋上、人が包まっている菰を、見上げんばかりの長槍の小尻で引っぱがすと、小僧が出てきて名乗りを揚げた。「何をやる! オリヤ 日吉丸だぞ!」。

○…ここから始まる木下藤吉郎の出世物語は「太閤記」として膾炙している。その

「秀吉」を生涯支えたのが髭面「小六」で「家政」はその嫡子である。

○…蜂須賀二代目の家政は織田→豊臣→徳川の戦国の世、権謀術数の渦を泳ぎきった。老獺・家康を凌ぐ「狸」として。

○…青春は羽柴秀吉お付き、黄母衣衆。槍一筋で手柄も立てた。長じて城主小六のお手伝いで播磨龍野三千石城代。毛利水攻めは成就寸前に暗転して本能寺の変。危急にあって家政は信長の死を秘匿する防諜戦を評価されたか、讃岐国を預かった。

○…家政は四国を牛耳る長曾我部を土佐一国に封じ込め、川に囲まれた「渭津」の小山に築城。落成の夜は城内城下に無礼講の踊りが渦巻き、以後、家政は特産・藍を振興させ領国経営に傾注した。

○…運命の関ヶ原。意外! 蜂の槍先は西軍に向けられた。これを以て「狸腹」を非難するの論がある。だが家政の腹には父小六が活躍した木曾川の「川並衆」と「島なき島」徳島への愛があったという小説「殿さま狸」作者・箕輪諒(歴史群像大賞受賞)の論に組したい。(柳)

2016 新年おめでたく、今年「ひのえのたぬき」



いと頭に乘せて、札ならぬ小判に替えるのが今年の新(申)技。

昨年は日本たぬき学会発足18年目にして初めての関東大会が横浜角田城代のお世話で開催、普段中々お目にかかれない江戸狸との出会いや茂林寺の和尚の「分福茶釜講話」、15年ぶりの若柳狸の「百狸踊り」など「他抜きして」とはけて間抜けて おもしろおかしく世を円(まる)く」と横浜で腹鼓を打ちながら「びっくりポンや!」

本年は徳島浅井城代のお世話でおもしろおかしく阿波踊りでも、みんなでおどりましょう。皆出て来い来い来い♪♪

(会長 大平正道)

タヌキは人間の願望と共に、その時々々の世相を映し出す鏡です。今年の干支は丙申、「ひのえのたぬき」「田」を貫(ぬ)いて「申」(たぬき)と申す。陰陽五行では丙が陽の火、申は陽の金で相剋(火剋金)とされている。火が金属を溶かす関係を表している。火が金属を溶かした後は?木の葉をひ

関東大会新会員盛りに上がる

「お久しぶり!」「やあ、やあ、お元気!」「私も会員に!」

近代日本をシンボルの歴史遺産を随所に散りばめつつ、それでいて現代チックなベイエリア開発で日々その姿を変貌し続けるミナト横浜。その中央部・日本大通りの横浜海洋会館で昨二十七年九月五日午後、第十八回日本たぬき学会大会が開かれました。学会史上、初の関東大会。千葉、東京、埼玉、群馬、神奈川などの地元関東、三重、愛知、新潟、金沢など中部・北陸地域、信楽などの近畿圏、島根県など中国・山陰勢に加えて、海を渡って徳島・愛媛の四国の面々。いずれも「たぬき」

ファンばかり。関東大会を機に多くが新会員に迎えられました。もちろん、顔見知りの古参会員も。新会員にエールを送りつつ、一年ぶりの挨拶を交わし、旧交を温めました。

大平会長と大会世話人・横浜城代の角田昌男氏の挨拶で始まった総会では前年度事業と会計報告、二十七年の計画を了承。役員選任、次回大会は徳島で開催することも決定されました。

この後、恒例の出席会員の近況報告、情報交換に続いて、『分福茶釜』の茂林寺(群馬県館林)の古川和尚が記念講話、若柳雅康さんが「百狸踊」を披露。笑顔と歓声の交流となりました。

古川住職「茂林寺」講話



総会では禅寺・茂林寺の古川正道住職が講話＝写真④。群馬・館林に伝わる狸民話を童話に仕立て全国に知らしめた児童文学者・巖谷小波(いわやこなみ)の事績や、祖父の代から取り組んでいる「狸寺」の現状を紹介した。小波は信楽の隣町出身。双方とも不思議な「狸縁」に導かれた町?! 日本舞踊家・若柳雅康さんも総会に参加＝写真⑤。得意演目「百狸踊」を披露した。若柳さんは正派若柳流の「スター」「百狸踊」10回公演を念願にしている。



舞う正統派若柳流「百狸踊」



乾杯! 紳士狸と淑女お狸

総会終了後の懇親会々場は、かつての「紳士淑女の社交場」で「海洋大国ニッポン」の香り漂う横浜海洋会館の「マリクラブ」(会員制)。クラブ幹事が大会世話人の角田氏との信頼関係で、レトロで重厚な内装の部屋を狸学会々員に特別開放。豊かで居心地満点の雰囲気。和気藹々の狸談義・近況報告も大いに盛り上がった。角田氏が信楽焼の狸サーバーに焼酎をトクトクと注げば、若柳師の「百狸踊」の舞踊の御礼とばかりに狸学会囃子奉行・鈴木授介氏が尺八「狸囃子」を飄々朗々粛々とお返し……会員一同、大いに満々足だった＝写真⑥⑦。



ミナト横浜・狸の集う

たぬき学会史上初の関東大会——第18回総会では新役員・会計報告も了承された＝別表。総会後は古参・新参の狸たちが恒例の懇親会。翌日は茂林寺・日本丸などの訪問ツアーもあって実り豊かな横浜大会となった。「思い出アルバム」を繰ってみよう。



大平会長⑧と角田昌男・横浜城代⑨



茂林寺に「鎮座」、まします分福茶釜



盛りあがる懇親会メンバー



茂林寺境内で木魚を打つ狸

平成26年度 日本たぬき学会会計収支決算

収入の部			支出の部		
24年度会費	2,000	2000×1	事務通信	46,771	発送・切手・葉書
25年度会費	24000	2000×12	新聞印刷	78,200	36・37号
26年度会費	186,000	2000×93	新聞編集	20,000	36・37号
27年度会費	2,000	2000×1	事務用品	7,840	プリンター等
法被売上	96,000	8000×12	総会費	105,490	会場費等
寄付金	1,000		その他	120,108	販売用法被
利息	101		合計	378,409	
前期繰越	451,775		☆差引残高384,467円は27年度に繰越。植田郁、奥田泰嗣氏の監査済。総会了承。		
合計	762,876				



狸も眠る…港・横浜の夜は更けて



今年は阿波徳島大会

今年(2016年)の総会は徳島県で開催されることになった。喜左右衛門(西条)金長(小松島)禿(高松)お袖(松山)小女郎(新居浜)八州(高知)など四国は「スター狸」を始めとして大小の狸群が汪溢する土地柄。日本たぬき学会発祥の古里でもある。徳島城代・浅井清さん、お世話になります＝写真⑩。



★改選役員一覧★

学会城代	大平正道	琉球大学
琉球城代	小西順子	琉球大学
徳島城代	浅井清	金長たぬき
松山城代	村井正良	八百八狸
伊予城代	徳田紀男	喜左右衛門狸
新居浜城代	森實雄二	小女郎たぬき
淡路城代	酒井一成	八狸委員会
美濃城代	加藤秀夫	中津川狸殿主
横浜城代	角田昌男	
熊本城代	黄檗礼子	
金沢城代	井家利之	
館林城代	古川正道	茂林寺住職
ご意見番	中村禎里	(ご逝去)
目付	荻原理一	京都
目付	山岡堯	松山
目付	島田せいじ	津
目論見奉行	佐藤信夫	信楽
掛合奉行	中西弥平衛	信楽
勘定奉行	植田郁	信楽
	奥田泰嗣	信楽
編集奉行	小谷柳太	信楽
	島田せいじ	津
囃子奉行	鈴木授介	信楽
催事奉行	森實雄二	新居浜
焼物奉行	石原元治	信楽
	上嶋次男	信楽
寺社奉行	辻正幸	南

帆船「日本丸」に搭乗

総会の翌日は「日本丸」に搭乗、ガイドさんに導かれてデッキや船内を見学した＝写真⑪の2枚。「日本丸」は兄弟帆船「海王丸」と並んで海国ニッポンを代表する練習帆船。世界中を巡っている。

▼信楽・新宮神社境内で続いている「全国狸の腹鼓大会」。住所・年齢・職業・性別不問、ただただ狸大好きで本物びつくりの腹鼓が打てればOK。趣旨と資格が浸透したのか、年々歳々盛況だ。第六回大会も「狸」になりきった衣装の挑戦者が登場する度に境内びつりのギャラリィからドツと洪笑。そんな中、姫路市の「まあこさん」が優勝。写真⑫。衣装の色から女性かと思えたが下腹部のふら下がりで男性と知れた。毎年連続「擬り擬りのコスチューム」で挑戦とのこと。今年の秋が楽しみだ。カメラマンの佐藤信夫さん。



▼北陸新幹線で注目の金沢市だがあまり知られていない「狸事情」を……石川県には、四国のような「スター狸」もいなければ「分福」のように有名な狸民話もない。だが同市は「狸のソレ」は八畳敷の語源の「金箔」生産日本一であることは狸ファンなら知っておきたい。また、市内の東警察署前には信楽狸家が植込から道行く人を見守っている。写真⑬。お祖父さん狸は藤原鎌三の作。風雪六十年・還暦記念の平成二十年には損傷剝離を地元民がお色直し。一見の価値あり。ただし「交通安全狸」なので「徳利」は持っていない。もうひとつ「現役」の金箔職人の証言「金箔延ばしに狸のソレを使うことはありまへん」。金沢城代・井家利之さんのお便りから。



各地お便り アレコレ

▼辺り一面たんぼ、民家十三軒。近くに雑木林。安土山へは徒歩二十分ほど。そんな所に住んでいます。ある日、庭にひょうこり……。それが「ネイマル」との最初の出会いでした。煮干を撒いたり、何をあげていいのかわからないので高野豆腐や、魚の頭をあげていました。日記は五月四日からつけ始めました。七時前後、毎日きてくれました。サーモン、骨付きカシワの唐揚げ、トンカツ、ドーナツ、天かすなど、など。揚げ物が好物だったようです。廊下から放り投げていたのですが、つぶらな瞳でちよんちよんと座って、こちらを見ていることもありました。ところが、そのうち、猫が寄ってくるので前以てエサを撒いておけなくなりました。十月二十三日、サブレを銜えていったきり、戻ってきません。外灯を点けて待つて居るんですが姿を見せません。寂しくて(十月下旬)滋賀県東近江市・永松節子さん。